

教育に関する事務の点検及び評価報告書
(令和3年度事業分)

令和4年9月

葛城市教育委員会

目 次

	はじめに.....	1
1.	教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2.	教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3.	教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4.	教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5.	葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	9
6.	教育委員会事業評価シート.....	11
7.	点検及び評価のまとめ.....	59

はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成27年4月1日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところです。

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成20年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、令和3年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。6月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

(1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

2. 教育に関する事務の点検及び評価について

(1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業(今回は令和3年度事務執行分)とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

(2) 今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

(3) 点検・評価の経緯

①令和3年度 2月定例教育委員会会議（令和4年2月22日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

（令和4年6月16日・22日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③令和4年7月 教育委員からの意見の聴取

教育に関する事務の点検及び事業評価についての意見を聴取しました。

④令和4年8月 教育委員の意見総括と最終決定

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

（令和4年9月提出予定）

(4) 各事業の方向性

令和3年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	2件
現状のまま継続する	11件
見直しのうえ継続する	10件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	0件
終了・完了	0件

(主要施策ごとの評価は、P13～P58に掲載)

3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充(元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員、
歴史博物館協議会委員)

川中 教正(當麻寺奥院 副住職)

(主要施策ごとの評価は、P13～P58に掲載)

4. 教育委員会の運営及び活動状況

(1) 教育長及び教育委員について

教育長及び教育委員は下表のとおりです。(令和4年9月1日 現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	椿本 剛也	
教育長職務代理者	森 古文	
委 員	高木 希容子	
委 員	高橋 真一	
委 員	山口 容視子	

(2) 教育委員会議及び審議状況について

令和3年度は合計で17回の委員会を開催し、審議事項 23 件、協議報告事項 47 件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4 月 12 日	・葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・教育委員会人事異動について ・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和4年「成人式」について
4 月 23 日	なし	・学校・幼稚園における新型コロナウイルス感染症の対応について
5 月 6 日	なし	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策について ・スポーツ推進委員の委嘱について
5 月 13 日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度学校教育課程について

開催日	審議事項	協議報告事項
5月31日	なし	・社会教育施設の休館について
6月2日	・令和3年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・学校運営協議会委員の委嘱について ・教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・認定こども園について
7月5日	なし	・葛城市歴史博物館協議会委員の委嘱について ・学校給食運営委員の委嘱について ・学校給食運営委員（PTA 代表）の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度 教育に関する事務の点検及び評価について ・認定こども園について
7月29日	・葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度市町村教育員会オンライン協議会の実施について ・教科書採択について
8月20日	・教科書採択について ・葛城市立認定こども園条例を制定することについて ・葛城市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則について ・令和3年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・令和3年度葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度 教育に関する事務の点検及び評価報告書について（最終確認）

開催日	審議事項	協議報告事項
9 月 21 日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会の参加確認について ・全国学力学習状況調査の結果について
10 月 28 日	・葛城市学校給食関連事業者等応援事業補助金交付要綱を廃止する要綱について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会の開催について ・令和3年度奈良県市町村教育委員会研修大会の開催について
11 月 22 日	・葛城市行政組織条例の一部を改正することについて ・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市教育委員会作文の選出について ・葛城市教育委員会委員の任命について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について
12 月 20 日	なし	・葛城市体力づくりセンター運営協議会委員の委嘱について ・葛城市学校給食運営委員会委員の推薦について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について
1 月 20 日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・葛城市いじめ問題対策連絡協議会等条例の制定について ・学校給食運営委員の委嘱について ・学校給食主食納入業者の選定について
1 月 30 日	・教育委員の辞職について	・給食納入業者について

開催日	審議事項	協議報告事項
2月22日	・葛城市学校医の委嘱について ・葛城市いじめ問題対策連絡協議会等条例を制定することについて ・葛城市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正することについて ・令和4年度葛城市一般会計予算に対する意見聴取について ・令和3年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・令和4年度葛城市学校給食特別会計予算に対する意見聴取について	・葛城市教育委員会委員の任命について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について
3月17日	・葛城市学校薬剤師の委嘱について ・葛城市学校給食費徴収規則の一部を改正する規則について ・葛城市学校給食の実施及び給食費取扱要綱の一部を改正する要綱について ・葛城市学校給食主任会設置要綱の一部を改正する要綱について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和4年度学校教育の基本方針について ・ICTの活用について

(3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・各幼稚園、小・中学校入学式（4月7日～9日）
- ・総合教育会議（7月29日）
- ・葛城市立学校初任者研修会（8月18日）
- ・各幼稚園、小・中学校運動会（9月22日～10月31日）
- ・近畿市町村教育委員会研修大会（11月1日）
- ・奈良県市町村教育委員会研修大会（11月10日）
- ・各小・中学校訪問（11月11日～11月29日）
- ・総合教育会議（11月22日）
- ・成人式（1月10日）
- ・教育委員会人事具申ヒアリング（1月17日）
- ・各幼稚園訪問（1月20日～21日）
- ・各幼稚園、小・中学校卒業式（3月15日～18日）

都市像

歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて
愛される住みよい共存の都市 葛城

政策の柱

調和・共助
～多種多様な価値観が共存するまち～

壮健・学習
～心と身体が健やかに育まれるまち～

活力・安全
～にぎわいあふれる安心なまち～

政策目標	施策目標
市民みんなが活躍できる社会の構築	高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する
豊かな自然の保全・継承	循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める
歴史・文化と調和的な地域づくり	歴史や文化の保護・活用を図る 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める
誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸 安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり 運動の場の形成を通じた市民の健康の増進
教育・学習による未来の市民づくり	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める
生涯学習による豊かな心の涵養	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する 人権教育により差別のない社会を形成する
住みよいまちを支える社会基盤の実現	基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する
産業振興による地域の稼ぐ力の向上	農商工業の地場産業を育成し、活性化させる 観光業の振興によるまちの賑わい創出
安心・安全な生活環境の整備	自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする 地域の防災体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

6. 教育委員会事業評価シート

【令和3年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

- 事業 No. 1 学校施設トイレ改修工事
- 事業 No. 2 学校施設各所改修工事
- 事業 No. 3 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業
- 事業 No. 4 学校給食事業
- 事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会
- 事業 No. 6 読書活動支援・講座
- 事業 No. 7 ブックスタート事業
- 事業 No. 8 電子図書館事業
- 事業 No. 9 成人式式典事業
- 事業 No. 10 青少年健全育成事業
- 事業 No. 11 学校・地域パートナーシップ事業
- 事業 No. 12 生涯学習まちづくり推進大会事業
- 事業 No. 13 葛城アートフェア事業
- 事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務
- 事業 No. 15 中央公民館 当麻文化会館 教室・講座事業
- 事業 No. 16 地区館教室・講座事業
- 事業 No. 17 文化振興事業
- 事業 No. 18 展示(常設展・特別展等) 事業
- 事業 No. 19 歴史講座開催事業
- 事業 No. 20 埋蔵文化財等調査事業
- 事業 No. 21 各種教室開催事業
- 事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業
- 事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

教育委員会事業評価シート

		事業No.	I
事務事業名	学校施設トイレ改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各学校施設

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	明るく清潔で快適なトイレ空間の構築				
事業の内容	老朽化し洋式化率の低いトイレを、明るく清潔で快適な空間にするため、當麻小学校北棟のトイレの全面改修工事を実施した。 和式便器の洋式化、湿式床から乾式床、その他内装、設備器具の更新を行った。				
事業対象	各学校施設				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		55,132	46,177	0
		内一般財源		39,684	31,649	0
		内国・県補助金		15,448	14,528	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		2,820	2,784	0
		総コスト①+②		57,952	48,961	0
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	施工	千円	54,230	45,627	0
		設計	千円	-	-	-
		監理	千円	902	550	0
	事業 成果			新庄中学校北棟1階2 階3階男女トイレ全面 改修 洋式化、乾式床化	當麻小学校北棟1階2 階3階男女トイレ全面 改修 洋式化、乾式床化	※令和4年度予定の白 鳳中学校南棟につい ては、同校舎の全面 改修と合わせて施工 する計画で、トイレ 本体は令和5年度に施 工予定している。

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	生活文化の変化に伴い、トイレの洋式化を促進し、実生活に則した環境づくりを実施した。やや暗いイメージのある湿式床から、明るく清潔感あふれる乾式床にし、快適な空間を提供できた。臭いの元を断つために、全排水管及び、床・壁・天井・ブースの全撤去、新設をおこなった。			
事業の課題・問題点	工事時期により、授業実施中に音出し工事をするこで、授業への悪影響が懸念される。できるだけ休日作業を実施するが、工期内竣工の工程により、調整の困難度が高い。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	引き続きトイレの洋式化、乾式床化を行っている。 長期的な維持については、丁寧な使用と清掃を呼び掛けるとともに、不具合がある場合には早期に連絡いただき対応するようにしている。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	生活環境の変化に伴い、随時トイレを洋式トイレにし、清潔感のある乾式床にすることによって快適な空間を提供することは嬉しい限りである。また、児童・生徒にできるだけ悪影響を与えないように工期時期や休日作業等の調整に取り組まれ十分評価できる。 市内公立小中学校のトイレのうち約3分の2が洋式乾式トイレへと生まれ変わっている。現代の家庭トイレの多くが洋式であり、かつ現在の各校舎は老朽化が進んでいることから、未改修のトイレも順次改修を行っていくことが望ましい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	引き続き、清潔感のある快適な空間を提供できるようトイレの改修を進め、改修後のトイレの衛生管理についても、学校と連携しながら快適な環境を維持するよう務めます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	学校施設各所改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各学校施設

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標		教育・学習による未来の市民づくり				
	施策目標		子どもの健全な育成に対する各種支援を行う				
事業の目的		教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。					
事業の内容		より良い教育環境を築くため、市内学校施設の建物・設備の中規模程度の改修工事を実施した。主な項目としては、忍海小学校と磐城小学校では渡り廊下の滑り止め対策を、新庄北小学校ではプールフェンスの整備を、當麻小学校では床タイルの補修及び南棟1階教室・職員室への網戸の設置を、新庄中学校では玄関前の側溝整備を、新庄北幼稚園では天井付扇風機の増設を、當麻幼稚園では職員・来客トイレの洋式化を行った。					
事業対象		各学校施設					
事業年度		■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間	

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①	2,612	7,639	7,842
		内一般財源	2,612	7,639	7,842
		内国・県補助金	0	0	0
		内受益者負担	0	0	0
		人件費 ②	2,820	2,784	2,784
		総コスト①+②	5,432	10,423	10,626
実績と 成 果	区 分	単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業実績	千円	2,612		
	事業成果	工事箇所	主な内容 【新庄小】多目的室雨漏り・床補修、職員室網戸設置 【新庄北小】遊具塗装 【磐城小】手摺設置、職員室床補修	主な内容 【忍海小、磐城小】渡り廊下滑り止め施工 【新庄北】プールフェンスの改修 【當麻】網戸の設置 【新庄中】側溝整備 【新庄北幼】天井付扇風機の増設 【當麻幼】職員・来客用トイレの洋式化	主な内容 【忍海小】網戸の設置 【新庄中】鋼製建具修繕・テニスコートフェンス基礎の改修 【新庄北幼】日除けの増設 【當麻幼】木造園舎の修繕

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	各学校園からの要望について、児童・生徒・園児の衛生面、安全面、利便性の向上等を検討し、緊急性の高いものを本事業で施工することにより、より良い教育環境の維持と施設全体の長寿命化にもつなげることができた。			
事業の課題・問題点	各学校園とも、建築より相当年数経過した建物・設備が多く、修繕を必要とする箇所の増加の他、社会の変化に伴う要望も多くあるが、予算を含め全てに対応することは困難である。子どもの命を第一に考え、緊急を要する箇所から着手することとし、安全で安心できる教育施設の環境づくりを進める必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	各学校園との連携を密にし、不具合箇所があれば都度現地確認のうえ、特に安全性に関わる部分や学校生活に影響がある部分については早期に対応を行うなど、安心安全の確保に努めている。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	毎年、安全な教育環境を提供するために、施設点検を定期的実施され危険箇所の早期発見・修繕・改修し、教育施設の環境整備に取り組んでおり、十分評価できる。 市内の学校・幼稚園施設は老朽化が進んでおり、本事業による小さな改修の積み重ねで長寿命化を図っている。毎年百数十寄せられる要望のうち、優先順序を見極めて的確な事業実施が望まれる。
-----------	---

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市内の学校施設は建築年も古い建物が多く、改修を必要とする範囲は、建物本体、電気設備や機械設備と多岐に渡って存在します。引き続き学校からの意見・要望をふまえ、優先順位を見極めながら、安全で安心な学校環境の整備に必要な処置を講じます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	JFAこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施設名	小学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	市内全小学校の５年生を対象に、日本サッカー協会よりアスリート等の派遣を仰ぎ「夢をもつこと」「努力すること」の大切さをゲーム及び講話を通じて指導いただく。				
事業の内容	今年度より事務事業名を「小学生スポーツ教室委託事業」から「ＪＦＡこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業」に変更しました。理由については本事業は、日本サッカー協会から様々なスポーツのトップアスリートやアナウンサーなどが夢先生として、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを学ぶ事業であるためです。この授業によって子ども達の心身の健全な発達に貢献していくプロジェクトであり、「ＤＲＥＡＭ 夢があるから強くなる」をスローガンに掲げ、「夢」をテーマにしている取組であります。対象は小学５年生としていますが、令和２年度は、新型コロナウイルス感染症を考慮し未実施であったため、令和３年度はこの授業を受けていない６年生も対象にリモートにより実施しました。				
事業対象	市内の小学５年生				
事業年度	■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		0	2,002	1,769
		内一般財源		0	2,002	1,769
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②		0		
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	対象人数	人	0	800	370
	事業 成果	夢を持ちたい と思う気持ち	%	0.00	61.00	100.00
		努力すること の大切さ	%	0.00	47.00	100.00
		友人を大切に すること	%	0.00	74.00	100.00
		人に感謝する 気持ちを持つ こと	%	0.00	63.00	100.00

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	○施策目標である「子どもの健全な育成に対する各種支援を行う」に対し授業前、授業後のアンケートを行い、子ども達の意識の変化を評価指標にしたいと考える。 ○事後アンケートにて、「夢を持ちたい」といった夢に対する思いが増えていること、また、「努力すること」「失敗してもあきらめないこと」「友人を大切にすること」や、「助け合い、人に感謝する気持ちを持つこと」「人の話をよく聞いて参考にすること」「積極的にチャレンジすること」などの項目において夢を実現するために必要だと感じた子どもが増加しており、当該事業の目的である「仲間を思いやることや、仲間と協力すること、夢を持つことの大切さ、失敗を乗り越えて夢や目標に向けて努力しようとする意識や態度を育む」に合致している。			
事業の課題・問題点	令和3年度はリモート授業での実施であり、5年生・6年生の2学年分であったが、対面による授業の半分程度の費用であった。ただし、教員アンケートにおいても対面を望む声が多くあることから対面の場合の費用削減について検討していく必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和3年度はコロナ渦の状況もありリモートにて実施した。リモート授業での実施においては費用面は軽減できるが、教員アンケートからも対面での授業を望む声も多くあった。本事業をより有意義にするためには対面授業による実施が望ましいと考える。
-----------------------	---

(有識者意見)

有 識 者 意 見	本年度は、去年度新型コロナウイルスで未実施であった6年生と5年生を対象にリモートにて実施されたことは評価できる。また、スポーツ関係だけでなく、幅広い業種の講師の体験談を聞くことによって夢を持つことや努力することの大切さを考えさせる場として有意義な事業である。今後、感染防止対策をし、学校の要望でもある対面講座ができるよう企画・運営をお願いしたい。 コロナ禍で実施できなかった令和2年度分とあわせて2学年分の開催であり、社会の第一線で夢を追い活躍された方々の話を聞くことができる貴重な機会である。アンケート結果を見ても授業を受けて子どもたちの変化が顕著に表れているし、教員からも望まれている事業だと思われる。
-----------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和4年度においても、リモートでの実施が決定しているところである。令和5年度には対面による事業実施が行えるよう要望していきたい。また、その際に増加するであろう委託料についても、できる限り削減できる方法を協議していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校教育課 (学校給食センター)
係 名	学校給食センター	施設名	学校給食センター

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		教育・学習による未来の市民づくり						
	施策目標		子どもの健全な育成に対する各種支援を行う						
事業の目的		園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。							
事業の内容		葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園4園・認定こども園1園・小学校5校・中学校2校と適応指導教室に、給食数1日約4, 200食を調理・配送する学校給食事業を実施している。 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するために、献立の作成や食材の選定を行い、学校給食衛生管理基準に基づき、全ての学校給食関係者の衛生管理の意識の徹底を図っている。また、設備機器等の保守点検業務も統一して行っている。 食育の取組では、地産地消を推進して地元産の米や野菜への理解を深め、毎月の「給食だより」に旬の野菜等の説明を入れて食への関心を高める。また、食物アレルギーにも対応した給食を提供している。							
事業対象		幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の園児・児童・生徒							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		336,188	362,985	368,631
		内一般財源		162,736	183,956	185,560
		内国・県補助金		100,603	58,775	0
		内受益者負担		72,849	120,254	183,071
		人件費 ②		26,408	21,041	20,769
		総コスト①+②		362,596	384,026	389,400
実績と 成果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	給食材料費	千円	180,207	206,469	216,222
		内市費	千円	19,326	27,440	33,151
		内保護者負担金	千円	72,849	120,254	183,071
		内国補助金	千円	88,032	58,775	
	事業 成果	給食人数	人	4,228	4,224	4,304
		給食数	食	661,143	745,987	791,936

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	地場産物として、米は100%葛城市産のヒノヒカリの使用を継続している。また、葉ネギや旬の野菜を市内産で賄えるよう、季節感のある献立や、児童等に人気のメニューを取り入れるリクエスト献立等、おいしい・楽しい給食を提供するべく工夫している。物価の上昇等により原材料費が年々増加しているが、給食費は平成26年の消費税増税分の値上げ以降は値上げを行っていないため、市からの助成金もそれに伴って増加している。							
事業の課題・問題点	・地産地消に関する取組（安定的な質・量の確保） ・給食材料費の価格上昇 ・学校給食負担金の見直し ・給食設備の計画的な修繕 ・異物混入対策 ・アレルギー対応							

評価を受けての改善点 (過去3年間)	地場産物の米・葉ネギについては継続的に使用しているが、野菜は天候の影響により安定的な確保が難しいということから、加工品（桑の葉パウダー、柿ピューレ、片平あかねの漬物等）も活用しながら、より子どもたちが地場産物を身近に感じられるよう工夫を行った。給食負担金については、給食原材料費の値上がりとコロナ禍の物価高騰による家計への負担の影響を考慮しながら検討する必要がある。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消についても関係機関と連携して安定した供給に取り組んでおり評価できる。本年度は、異物混入やアレルギー対応も十分なされており評価できる。これからも、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するためにも、学校給食関係者の衛生管理意識の向上及び施設の保守点検業務に力を注いでいただきたい。また、給食材料費の価格上昇により、給食費の見直しが必要である。 コロナ禍中、給食事業は無償化によって市民への支援という役割も担った。子どもたちの健康で壮健な身体を支える大切な事業で滞ることの許されない職務である。他行政では配送の入札でのトラブルがニュースとなっているが、葛城市では調理と配送は一体となって運営されており、安心できる。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	物価の上昇がどこまで続くか予測ができない状況であるが、給食は子どもたちの健康で壮健な身体を支える大切な事業であるということを鑑み、質を落とさずに安全・安心で栄養バランスのとれた給食を継続して提供できるように努める。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	葛城歌壇短歌大会	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。				
事業の内容	葛城市にゆかりがある柿本人麻呂と前川佐美雄の偉大な歌人の遺徳に学び、豊かな生涯学習への拠所として平成9年の創設以来、毎年全国・海外から短歌を募集してきたが、第25回目となった令和3年度をもって「葛城歌壇」を終了することになった。 (令和3年度の出詠者数1,555名、応募作品数1,770首) 令和4年度も日本の言語文化である短歌を継承する新たな取組を検討したい。				
事業対象	小学生から大人までの市民をはじめ、すべての人々。				
事業年度	☐	区分指定無	☒	平成 9年度	～ 令和 3年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		1,246	1,244	40
		内一般財源		1,086	1,083	40
		内国・県補助金				
		内受益者負担		160	161	
		人件費 ②		2,640	2,472	668
		総コスト①+②		3,886	3,716	708
実績と 成果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	選者講師謝金	千円	260	190	40
		印刷製本・送料	千円	907	950	0
		短歌講座講師	千円	20	20	0
		各種奨励費	千円	79	85	0
	事業 成果	応募者数	人	1,356	1,555	60
		応募作品数	首	1,585	1,770	120
		大会参加者数	人	0	0	0
		短歌講座参加者	人	15	19	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	C		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	平成9年から始まった「葛城歌壇」は、令和3年度の第25回をもって終了した。出詠者の高齢化や新型コロナウイルスの影響はあったものの一般の部では、223人438首と学生の部では、1332人1332首の出詠があった。 令和4年度からは「葛城市民歌壇」として葛城市民を対象にした事業に切り替え、「短歌のふるさと葛城」を市民に浸透させたい。							
事業の課題・問題点	令和3年度の一般の部の応募者数は223人であったが、葛城市民からの応募は34名に留まった。葛城市民からの応募が増えるように事業の内容も見直しが必要。							

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和4年度から葛城市民を対象に短歌の募集を行う。これまでの経験と新しい工夫で、市民の間に「葛城市民歌壇」を広めていきたい。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	この事業も本年度をもって終了となった。今までの総括をすることによって今後の課題が見えてくる。それを来年度から始まる新しい「葛城市民歌壇」の事業につなげていく必要がある。これからも市民のみなさまに関心を持ってもらえるよう企画・運営及び啓発活動に取り組んでください。 合併前から続く25年の歴史に終止符を打つ事業である。全国・海外からも応募が有り知名度をある程度有していた事業であるが、一方一般葛城市民からの応募数が少ない状況が続いてきた。今後はまず市民に対して「短歌のふるさと葛城」の浸潤を図ることを第一目的に据えなければいけない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☒	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標等)	昨年終了した「葛城歌壇」の趣旨を引き継ぐとともに25年間の経験を活かし、「葛城市民歌壇」を実施する。応募の対象を葛城市民のみとし、気軽に応募できる、親しみやすい「歌壇」を目指し、市民からの応募数が増加するよう取り組む。 目標数値：応募者数60人			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、図書館利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。				
事業の内容	図書館では、葛城市民が自らの生き方を豊かなものにするため、生涯を通じて学ぶ機会となる様々な講座を開催し、市民の知識の習得と向上を目指している。 令和3年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、子どもを対象に「マジックショー」や「一日図書館員」、「おはなし会」や「英語の絵本の読み聞かせ」などを実施した。しかし、成人を対象とした講座は、開催月にコロナウイルスの感染状況が悪化したため、令和4年度へ延期することになった。				
事業対象	市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・こども園・保育所の先生等				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
			事業費 ①	0	10	20
			内一般財源	0	10	20
			内国・県補助金		0	0
			内受益者負担		0	0
			人件費 ②	1,558	2,575	1,844
			総コスト①+②	1,558	2,585	1,864
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	子ども向け講座	千円	0	10	20
		文学講座	千円	0	0	0
	事業 成果	子ども向け講座	人	660	347	762
		文学講座	人	0	0	20

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☒ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☒ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度は、夏休み期間中に子どもを対象にした「マジックショー」と「一日図書館員」を実施した。マジックショーは親子で32名の参加があり、一日図書館員は両館で19名の参加があった。 毎月行う「おはなし会」と「英語の絵本の読み聞かせ」は、一年間で6回しか開催することができず、半分为新型コロナウイルスの影響により中止になった。 2月には成人を対象に「セカンドライフプラン」について学ぶ講座を予定していたが、直前に延期となり、令和4年度に実施する予定である。			
事業の課題・問題点	令和2年、令和3年と新型コロナウイルスの影響で事業がほとんどできなかった。図書館が行う事業は参加者が多数になるため、広い会場を使用するなど十分に換気を行い、事業が実施できる環境に努めたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	コロナ禍であるため、講座やイベントが計画通りに実施することができない状況ではあるが、コロナが収束したタイミングでいつでも実施できるように事前準備に努め、令和4年度は効率良く進めたい。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	本年度も新型コロナウイルス感染予防のため、中止になった講座やイベントがあり、十分な成果が見られなかった。今後、コロナ禍に於いても環境づくりに留意し、いろんな方法を検討し実施できる取組が必要になってくる。 コロナ対策として申込制や人数制限、中止判断などの対応を取っていただいている。図書館を市民に身近に感じていただき、講座等を通じて新たな興味関心を創出する役割があり、市民に対し情報を発信するという大切な役割もある。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	コロナ禍で2年の間講座の開催ができず、市民に学ぶ機会が提供できていない。今年度は中止することなく実施するとともに、多様なテーマの講座を行うよう努める。 (一般：3講座 児童：3講座)	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	赤ちゃんとの保護者が触れ合う機会をつくれるよう絵本を介して、行政と地域が連携して子育てを支援する。				
事業の内容	ブックスタート事業は、絵本の普及や早期の教育が目的ではなく、絵本を活用しながら赤ちゃんとの保護者がコミュニケーションを深め、楽しいひと時を共に過ごすことを目的とした活動である。例年、健康増進課が実施する4ヵ月児健康診査時に、おはなしボランティアの協力のもと実施してきたが、令和2年度より新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、図書館職員とおはなしボランティアは参加せず、健康増進課を通して赤ちゃん絵本や絵本のリストなどを配付している。				
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃんとその保護者				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～年度間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和２年度決算	令和３年度決算見込み	令和４年度予算
			事業費 ①	118	156	228
			内一般財源	118	156	228
			内国・県補助金			
			内受益者負担			
			人件費 ②	178	678	417
			総コスト①＋②	296	834	645
実績と 成 果	区 分		単位	令和２年度実績	令和３年度実績	令和４年度(目標)
	事業 実績	ブックスタート	千円	118	156	228
	事業 成果	ブックスタート	組	277	308	300

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☒ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度も新型コロナウイルスの影響により、ブックスタートを対面式で行うことができず、健康増進課を通じて赤ちゃん絵本と資料の配付を行った。直接保護者にブックスタートの趣旨や赤ちゃん絵本の楽しさを伝えることができないため、事業本来の目的が達成できていない。			
事業の課題・問題点	コロナ禍以前では、ブックスタートに参加した親子が図書館へ来館して、赤ちゃん絵本を借りたり、おはなし会に参加する様子が見られたが、現在では利用が減っている。 図書館職員と保護者が直接言葉を交わし絵本の良さや読み聞かせのポイントなどを伝えることで、保護者の図書館や絵本に関心を持つきっかけにつながるため、今後もブックスタートに参加できない状況が続くことを考慮して、図書館内で職員と保護者が対話できる機会を設けるよう努める。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	コロナ禍でブックスタートの活動が自粛しているが、おはなしボランティアには活動再開に向けて練習や研修に努めてもらっている。また引き続きボランティアの確保にも努める。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	地域と行政が連携して子育ての支援に取り組み、十分評価できる。今後も、事業の目的達成に向け、コロナ禍であるこの時期にボランティアの確保及び育成に取り組むよい機会にして欲しい。 コロナ禍の制限がある中で、できることを何とか続けたいという想いで実施していただいている。対象が乳幼児ということもあり本格的再開判断が難しいところであるが、事業の効果については今までからも高く評価されており、図書館利用率向上に多大な影響を及ぼしている事業でもあるので、通常の運営に戻ることを期待する。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	コロナの影響が長引き、ブックスタートの休止状態が続くことを考慮して、ブックスタートの代わりとなるような取組を行う。また、現在のボランティアもメンバーが高齢化してきているため、事業の継続のために若い世代の人材確保に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	電子図書館事業	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	全ての葛城市民に読書の機会を提供する				
事業の内容	かつらぎし電子図書館を導入したことで、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いて、場所・時間を選ばずに市民が読書を楽しむことができるようになった。令和3年度も新たに206冊のコンテンツを購入し、電子書籍の充実を図った。				
事業対象	市民（子どもから大人）				
事業年度	☒	区分指定無	☐	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和２年度決算	令和３年度決算見込み	令和４年度予算
		事業費 ①		3,661	1,186	1,660
		内一般財源				
		内国・県補助金		3,661	1,186	1,660
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,219	989	1,392
		総コスト①＋②		4,880	2,175	3,052
実績と 成 果	区 分		単位	令和２年度実績	令和３年度実績	令和４年度(目標)
	事業 実績	コンテンツ購入	千円	2,726	528	1,000
	事業 成果	貸出冊数	冊	520	12,543	20,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年10月から市内の小・中学生全員にIDとPWを付与し、電子図書館を使う環境作りに努めた。また、小学校では授業の中に電子図書館の使い方を取り入れてもらえたことで、朝の読書の時間やお昼休みの時間帯に子ども達の利用が急速に伸びた。さらに、子ども達から保護者へ電子図書館が広がり、一般の利用も徐々に増えている。			
事業の課題・問題点	子ども達の利用が伸びているなか、子ども用のコンテンツが少ないため、子ども達に十分に行きわたっていない。全ての子ども達が電子図書館を利用することができるよう、コンテンツの充実が急務である。 また、電子図書館の導入から1年以上経過したがまだ、電子図書館の存在が行き渡っていないため、今後も広報やHPなどで周知に努めたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	コンテンツを充実させるため、令和4年度予算を増額した。子ども達の読書や学習の支援に役立つコンテンツの導入に努めたい。 また、電子図書館が所蔵するコンテンツを簡単に検索できるようにリストを作成し、利用者の利便性を図っていききたい。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業は本年度で2年目となり、少しずつではあるが浸透しつつある。これからも、この「かつらぎし電子図書館」を市民に広く啓発していくことが重要である。本年度も、コンテンツを増冊し、電子書籍の充実を図られ、評価できる。 小中学校の生徒・児童に広くタブレットやPCが配布され、学校教育に取り入れられている現状の中、利用率が急進していることが貸出数の急増から見て取れる。時代の流れに沿った事業である。電子書籍は紙に比べ劣化しないというメリットがあるが、ライセンスの制限があり、貸出回数の上限に達するとライセンスの再購入が必要となる。利用数の増加に合わせてコンテンツの充実を目指していくことが必要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	子ども達の読書や学習を支援できるようコンテンツの収集に努め、さらに利用しやすい環境の整備に努める。また、一般の人々に広く電子図書館を周知し、さらに利用者の増加を図る。 毎日の貸出目標：50冊以上	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。				
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても、いかに感染リスクを低減させて成人式を挙行するか協議を重ね、本事業を実施する。				
事業対象	新成人及び新成人関係者				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		973	946	1,000
		内一般財源		973	946	1,000
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		6,043	2,849	2,849
		総コスト①+②		7,016	3,795	3,849
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	973	946	1,000
		スタッフ会議	回	8	1	8
	事業 成果	参加者数	人	284	273	310
		対象者人数	人	398	389	390

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	十分な新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、成人式を実施した。 令和2年度と同じく、當麻地区と新庄地区に分けての2部開催とし、座席間隔を空け、男女別の出入口を設けた。また、式典の内容を簡略化し、可能な限りマルベリーホール内に滞在する時間を短縮するように努めた。 令和2年度は、入場の際の体温測定に時間がかかり、『密』の状態を作ってしまったが、検温器を増設したことで、入場時の混雑は回避することができた。			
事業の課題・問題点	令和3年度においても、成人式において感染者を発生させることなく終えることができた。 令和4年度も、2部制で開催するほうが好ましいと考える。 しかしながら、令和2年度でも問題となったが、成人式終了後にロータリーで新成人が帰らずに混雑している状況が生じている。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	蓄積された令和元年度までのノウハウが通用しない部分が多いが、昨年度の反省をふまえて、適切な改善を行えていると考える。			

(有識者意見)

有識者意見	本年度も、新型コロナウイルスの影響により、當麻地区・新庄地区に分けて2部制及び式典のみの開催になったことは残念であるが、無事実施することができたことはよかった。また、去年度の反省を踏まえた企画・運営をされ十分評価できる。 コロナ禍で取れる必要な対策は講じている。成人式は必要な式典で有り、どんな状況下であっても開催実施を第一に考えるべきで、コロナ禍でも開催できていることは正しい判断であったと考える。ただ、新成人スタッフの会議が順調に開催できておらず、市の主導感が強くなってしまっており、今後の課題である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和4年度においては、LINE等のコミュニケーションツールを活用して、万が一、会議を開催できない事態となっても、議論を遅滞なく行える体制を構築している。 令和2年度、3年度で蓄積されたコロナ対策を基に、十分な感染症対策を施した上での式典運営に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係 名	青少年健全育成事業	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。				
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載、駅・学校等での横断幕設置) ※駅前での啓発活動(啓発物品の配付)は、実施せず。 ②非行防止と環境浄化運動の推進(遊戯施設の巡視活動) ※各種イベントでの巡視活動は、イベントの中止に伴い、実施せず。				
事業対象	市内青少年				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	400	400
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,776	1,798	1,798
		総コスト①+②		2,176	2,198	2,198
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	会議	回	3	6	6
		研修会	回	1	0	7
		巡視活動	回	1	1	1
		街頭啓発	回	0	0	2
	事業 成果	会議	人	21	36	42
		研修会	人	1	0	9
		巡視活動	人	0	0	0
		街頭啓発	人	0	0	100

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度と同様に、街頭啓発を行うことができなかった。「啓発物品を手渡しする」というスタイルである以上、致し方のないことであると考えます。 街頭掲示による啓発活動は、メッセージ性の高さを取り扱いの容易さから好評を得た「横断幕」の使用箇所を増やした。場所によっては、横断幕の設置に適さない箇所もあるため、のぼり旗も併用する。			
事業の課題・問題点	コロナ禍によって「多くの人と会って交流する機会」が損なわれ、青少年の孤立化が進んでいるように感じる。人と会うことができない代わりに、SNSなどの「相手の顔が見えない交流」の機会は増加していると考えられ、それらが新しい社会問題となっているが、これに対しての有効な手段は、未だ模索中である。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	葛城市子ども・若者地域支援協議会、生活安全推進協議会などの関係諸機関との連携が図れておらず、積極的な情報交換が必要であると考えます。また、青少年の健全な育成を阻害する要因が、従来から変化している社会に対して新たな支援方法を検討する必要がある。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	IT化が進む中、青少年の問題も変化してきている。青少年健全育成協議会を通して得た情報等を5団体だけでなく地域のいろんな団体やグループとの連携を図り、地域を巻き込んだ活動にしていくことが重要である。コロナ禍ではあるが、青少年の健全育成のため、情報発信・啓発活動に取り組んでください。 近年の青少年を取り巻く環境に、孤立化やSNSを通じた諸問題があり、可視化することが困難である。それに対しての発信も運動の効果検証も全てが難しくなっているが、地道な活動が実を結ぶと信じ行動するしかないのかと考える。他協議会との連携については比較的容易にできるはずで、早期に解決すべき課題である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	青少年のインターネット利用に起因する様々な問題や事件、事故は可視化が難しく、また大人の関知しない、若しくはできない部分で進行する。これら問題等を未然に防ぐためには、やはり正しい知識の啓発が必要であると考えます。またこれらは、不登校、引きこもり等の社会問題にも関係していることから、他の協議会との一層の連携を図れるように努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。							
事業の内容		学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行っている。							
事業対象		市民及び市内小中学校教員							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		2,946	2,918	3,000
		内一般財源		1,500	1,401	1,000
		内国・県補助金		1,446	1,517	2,000
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,820	2,088	2,088
		総コスト①+②		5,766	5,006	5,088
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	運営委員会に係る経費	千円	369	364	467
		教育支援活動に係る経費	千円	2,577	2,554	2,533
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度は学校が休業となることはなかったものの、従来の調理実習やミシン実習への支援を行う機会がほとんどなかった。感染力の強いオミクロン株の流行により、校舎内での活動に制限があり、子どもの健康を第一に考えた結果であるため、致し方ない。 校舎の外での活動は、人数制限を設けながら実施し、地域の方々の協力を得て活動することができた。			
事業の課題・問題点	ボランティアの増員が急務である。PTA総会などボランティア募集の良い機会であったイベントがなくなり、新規ボランティアの参加がほとんどない。ボランティアの総数が少ないが故に、ボランティア一人ひとりにかかる負担が増加し、負担の多さを理由にボランティア参加を躊躇し、結果ボランティアが増えない、という状況が続いていると考える。 ボランティア増員への良いアイデアを学校支援地域コーディネーターと共に考えている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コーディネーター間の連携は良く取れており、情報共有や助言、助力に加えて、当事業をより良い取組とするために、様々な話し合いを行うようになり、益々充実している。 しかしながら、コーディネーターの後任育成については未だ課題となっており、後任育成のためにも長期にわたり従事していただくボランティアの育成が必要である。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業は、地域住民及び学校(児童・生徒)の教育力の向上に役立っており十分評価できる。しかし、毎年の課題であるコーディネーター及びボランティアの発掘及び育成ができていないのが現状である。この課題の解決に向け、よりいっそうの取組が必要である。 今や学校教育に欠かせなくなってきた事業である。児童にとって地域の人々との交流という面と地域の人にとって児童と交流するという面の両面で良い効果が発生している。毎年のことではあるがコーディネーターとボランティアの手腕に頼っている事業なので、教育委員会としては継続的な人材確保に尽力しなければいけない。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	長年の課題であるボランティアの増員、後任コーディネーターの育成に関しては、コーディネーター自らアイデアを出し、コーディネーター同士で共有・議論を行っており、当事業の更なる拡充への良い機運がみられる。今後の事業継続に向け、市は活動を積極的にけん引するのではなく、当事業の自主性を高めて行けるように後方支援を行っていく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。				
事業の内容	①令和3年度モデル分館として指定を受けた八川寺前集会所、大畑集落センター、平田公民館並びに今在家分館による生涯学習活動発表 ②モデル分館指定を受けている4分館の区民による教室、講座等において作成の絵画、手芸作品、写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式 令和4年2月に上記の内容にて葛城市生涯学習まちづくり推進大会の開催を予定していたが、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の中核を成すモデル分館の活動が殆ど行えなかったことにより活動発表を実施することが叶わず、また、大会会場となるマルベリーホールでの不特定多数の方が来訪する状況での感染防止対策も困難を極めることから、令和3年度の大会は開催を中止とした。				
事業対象	市民				
事業年度	■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和２年度決算	令和３年度決算見込み	令和４年度予算
			事業費 ①	0	750	500
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	0	750	500
			人件費 ②	1,410	1,740	1,740
総コスト①+②			1,410	2,490	2,240	
実績と 成 果	区 分		単位	令和２年度実績	令和３年度実績	令和４年度(目標)
	事業 実績	参加人数	人	0	0	400
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度のまちづくり推進大会が中止となり、大会の中核を成す「分館モデル生涯学習活動発表」を行うことができなくなったが、既に発表に向けて地域での準備が進んでいたこと、令和2年度から発表延期となった地区に再度の延期をご了承いただくことには負担が大きくなることから、書面による活動報告を行うこととし、大会での発表にかえることとなった。			
事業の課題・問題点	令和4年度の2つの地区を最後に、分館モデル生涯学習活動発表が全分館一巡する。 令和5年度以降の事業の在り方を検討する必要があるが、従来の方式ではなく、現在の社会情勢に沿った事業内容に改めなければならないと考える。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	コミュニティ活動の醸成に寄与している当事業であるが、反面、事業を実施する地区、特に地区役員にとっては、負担の大きい事業でもある。 令和5年度以降の事業を検討するにあたり、この点には配慮が必要ではないかと考える。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度も大会が中止となった。去年度できなかったモデル分館の活動発表は書面での発表であるため、何らかの形で市民に報告する必要があると、検討していただきたい。令和5年で分館の発表が終わる。公民館は、地域住民の交流の場である。このことを踏まえ、今後この事業をどうしていくのか、今までの活動内容を再検討し方向性を見出す必要がある。 地域活動の励みとなる事業であったが、全分館発表が一巡を終える時期になって残念ながらコロナ禍の影響により効果的な実施を行うことができなかった。大きな節目でもあるので今後の事業の方向性について議論を尽くすべきである。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	令和5年度の事業の方向性については、現在の地域コミュニティの在り方を考慮した上で、どのような事業が効果的であるか十分な議論が必要である。 従前の内容にこだわらず、新たな視点から事業内容の検討を行う。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	葛城アートフェア事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		葛城市の芸術文化のより一層の振興を図るとともに、芸術文化を通じ市内外の住民の交流・地域の活性化を図り、「魅力あるまち葛城市」の発信を目的とする。							
事業の内容		全国より様々なジャンルの芸術作品を募集し、當麻寺を中心として、周辺ギャラリー、古民家、公共施設等に、作品展示を行う予定であったが、会場となる寺院、古民家等は、普段居住スペースであり、不特定の方が出入りすることから、事業の性質上、来訪者の個人情報把握が非常に難しく、居住者への感染拡大の懸念があることから、昨年度に続き、令和３年度においては、開催を取り止めた。							
事業対象									
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		0	0	0
		内一般財源		0	0	0
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,410	348	0
総コスト①+②				1,410	348	0
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	0	0	0
	事業 成果	来場者数	1日当	0	0	0
		総入場者数	5日間	0	0	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
評価の説明	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
事業の課題・問題点	令和2年度、令和3年度と、新型コロナウイルス感染症のために事業が中止となった。 当麻寺の各塔頭や古民家を利用すること、また、春から作品募集や、協賛企業への協力依頼を行う必要があることなど、感染症の見通しが立たない状況下での事業実施は困難であることから、一度、葛城アートフェア事業を休止し、より効果の高い事業への発展を目指す。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	より効果の高い事業へと発展させるためには、今までの手法のうち、良い点・悪い点を客観的に評価する必要がある。 また、かねてからの課題であった、事業の情報発信についても十分な検討が必要となる。
-----------------------	--

(有識者意見)

有 識 者 意 見	去年度と同じく、新型コロナウイルスのため中止になった。単独事業になって4年、事業の目的である、「魅力あるまち葛城市」の発信に向けて、事業の見直しが必要である。 コロナ禍において事業を実施できておらず、実行委員会も開催できていない。専門家の不在、実行委員会と行政との連携、マンネリ化などいくつかの面で課題を内在しており、これまでの検証とこれからの検討が必要だと考える。
-----------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	令和5年度の開催に向けて、まずは過去5年の開催実績を再度分析、評価を行い、次の催事に活用できる点、改善すべき点、廃止する点を見極めた上で、ICTなど新しい技術も積極的に取り入れながら、次の催事の骨子を作成する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	公園まつり事業	担当課名	生涯学習課 (中央公民館)
係 名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。							
事業の内容		葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会及び区長会をはじめとする約20団体の協賛により屋敷山公園一帯で野外イベント（和太鼓や踊り、ジャグリングパフォーマンスショー、フラダンス、吹奏楽等）を実施するとともに、模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、ニュースポーツなどを同時に行う。 令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため中止。							
事業対象		市内地域対象住民							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		0	0	1,600
		内一般財源		0	0	1,600
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		0	0	
		総コスト①+②		0	0	
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	0	0	1,600
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	1	0	1
	事業 成果	参加人数	人	0	0	10,000
		協賛団体	団体	0	0	20

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
評価の説明	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
事業の課題・問題点	毎年、多彩な内容により多数の来場者で埋め尽くされる公園まつりは、屋外開催のため会場は例年賑やかに彩っている。しかしながら、令和2年度及び3年度はコロナウイルス感染拡大防止のため中止。密の状態が1日続く当事業は、今後、コロナウイルスをはじめとした病原菌によるウイルス病での感染拡大が懸念されるが、ワクチンによる予防接種において新型コロナウイルスの鎮静化が、公園まつり再開のカギとなる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	本事業は、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度及び3年度の公園まつり事業は開催を行っておらず評価の対象としては難しく今後は、令和5年度の開催に向けた新たなウィズコロナでの計画及び取組が重要となる。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	本年度も、新型コロナウイルスの影響で中止になった。今後、葛城市公園まつり実行委員会が中心となって、コロナ禍においても、開催できるような計画及び運営を検討する必要がある。 政策目標「生涯学習による豊かな心の涵養」施策目標「芸術活動・文化活動を奨励し市民文化を形成する」に対し、実行委員会におけるコロナ禍の開催判断が「集客力」となっている現状がある。目標に立ち返ればコロナ禍の状況に応じた事業構築もできたのではないと思う。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和2年度から令和3年度まで新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、2年連続で開催が中止となり、本来の目的である「地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする」と原点に返って今後はコロナ禍でも開催を行う事に意義があり、それに向かって計画を実行していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	生涯学習課 (中央公民館・當麻文化会館)
係 名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。				
事業の内容	『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 令和3年度も令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部で開講の中止や変更を行った。 1. 中央公民館実施分 5教室 成人 4：華道、きもの着付け等、子ども1：茶道 14講座 成人11：菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー 等 親子 2：親子クッキング(土)、親子お菓子・パンづくり(土・日) 2. 当麻文化会館実施分 13講座 成人13：絵画、男の食卓等（7）、1日講座（1）、タブレット講座（5） 受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。				
事業対象	市内在住者・在勤者				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位:千円)			区分	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
			事業費 ①	2,109	2,173	3,969
			内一般財源	2,109	2,173	3,969
			内国・県補助金			
			内受益者負担			
			人件費 ②	7,117	7,709	
			総コスト①+②	9,226	9,882	3,969
実績と 成果	区 分		単位	令和2年度決算	令和3年度実績	令和4年度予算
	事業 実績	中央公民館	謝金	1,459	1,315	2,819
		當麻文化会館	謝金	650	858	1,150
		合計	謝金	2,109	2,173	3,969
	事業 成果	中央公民館	受講者数	1,384	1,317	3,244
		當麻文化会館	受講者数	851	659	1,342
		合計	受講者数	2,235	1,976	4,586

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☒ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度は、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症防止のため、開催時期を遅らせたり、中止をしなければならない事になった。また、開催した教室・講座においても、常に感染の恐れを心配しながらの活動であったため、以前のように十分に取組めなかった。			
事業の課題・問題点	教室・講座実施開催にあたり、閉講または中止が散見されるようになった。その理由として、 ①講師、応募者の高齢化（健康面）および応募者数の減少。中央公民館では、子ども絵画教室、わかりやすい基礎英語講座、プリザーブドフラワー講座定員に満たないため開催中止。 ②受講料が無料（教材費等は受講者負担）のため安易に捉えられる向きがあり、同じ教室や講座を毎年受講される方が多く見受けられる。今後、同事業に興味を持ってもらえるような新たな内容も検討し応募者増に努めたい。そして講座を数年にわたり受講されている人や毎年ほぼ同じ受講者のみで運営されている講座については、既存クラブへの入部や新規クラブの設立を進めていきたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和3年度は、コロナウイルス感染拡大防止に伴い、中央公民館及び当麻文化会館4月下旬から6月中旬までと8月末から9月が臨時休館となり事業が縮小となった。内容については、中央公民館の陶芸教室、ガーデニング講座、食育講座、匠のイタリアン講座、脳トレ楽ピアノ講座が募集の定員を超えたので、抽選を行い、当麻文化会館も男の食卓講座、ヨーガ講座（前期）、体と心の健康体操講座、プリザーブドフラワーで楽しむインテリアフラワー講座が同じく抽選を行った。少しでも多くの方に受講していただくために当麻文化会館では人気のタブレット講座を前期と後期の2回に分けて募集を行った。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルスの影響により一部で開講の中止や変更があったが、それ以外は感染対策をとり実施できたことは評価できる。これからも幅広く市民の学習ニーズを的確に把握し、気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組んでください。 コロナ禍の影響で開催に制限がかかり受講者数の減少が見られるが、コロナ後はすぐに当初人数への回復が見込めそうである。課題問題点に講座によっては受講者が固定化しているとあるが、「新規を優先する」「他の講座を勧める」「クラブ化」など対策は講じられているのであまり問題だとは思わない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	令和2年度と3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として延期や中止があった本事業であるが、今後も本来の目的である、学習活動の支援及び仲間づくりなど交流の機会を提供する事を前提にコロナ対策にも万全を期して計画を行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	生涯学習課 (当麻文化会館)
係 名	地区館係	施設名	5 地 区 館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的		生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。				
事業の内容		生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味や興味を同じくする人びとが身近な地区館に集い、学習する活動を支援するとともに交流を深める機会を提供する。 疋田、忍海、北花内、磐城、当麻の5地区館で絵画等12教室、俳句の1講座を開講し、教室は4回～9回の実施、講座は4回実施で開講している。 令和3年度において、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部で開講の中止や変更を行った。 受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。				
事業対象		市内 在住・在勤者				
事業年度		■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
			事業費 ①	946	526	866
			内一般財源	946	526	866
			内国・県補助金			
			内受益者負担			
			人件費 ②	888	1,392	1,436
			総コスト①+②	1,834	1,918	2,302
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	各種教室・講座	総回数	108	61	80
	事業 成果	参加人数	人	206	168	203

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	身近な地区館・分館において生涯学習教室・講座を開催することで気軽に参加受講でき学習意欲の向上と生涯学習の発展に役割を果たしていると考え。 料理・絵手紙・太極拳・パッチワークの4教室で講座開始後、及び終了前のそれぞれ15分～20分間程、また、書道・ちぎり絵の2つの教室については終了までスタッフが同席し講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズの把握に積極的に努めてきた。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果があがっている。			
事業の課題・問題点	毎年継続して受講しておられる方が多数あり、教室・講座での学びを楽しみにされている。同時に学び仲間ができ、その方たちとのふれあいにも楽しみにされている。しかし、平成15年頃から始まった地区館教室・講座であり、約15年以上経過しているが、なかには受講生の顔ぶれが変化していない教室・講座もある。そこで、そのような教室・講座をクラブ化して、自ら運営して頂く方向にしていかなければならない時期にきていると思う。それが本来の生涯学習ではないかと考える。 また、新講座・教室開設や実施回数の増加等の要望もあるが、新型コロナウイルス感染拡大も含め、受講者数が見込めるのか、予算と場所の関係などもあり、引き続き検討課題事項である。 定員をオーバーした教室・講座もあるが、いずれも僅数であり、講師の好意と受講者の理解により実施することができた。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	地域において趣味を同じくする人々が交流を深め、活動の輪を広げるためにも、住民が気軽に参加でき、学習意欲の向上と生涯学習の進展に寄与していくための身近な公民館活動になるよう、地域の実情を踏まえた各地区館での教室・講座の開催に向けて取り組んだ。また、受講生の方々には、地区館でのクラブ化を図り、自ら運営して頂く取組を推進した。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業は、身近にある地区館をととして、気軽に参加できることが重要である。しかし、各地区館によって、教室・講座の偏りがみられ、参加者も減少している。講師及び施設等の問題もあるが、事業の目的を再確認し、事業内容を検討する必要がある。 15番事業に比べ、より地域に近い地区館を会場に行っている事業である。課題問題点に受講生の顔ぶれが変化しないとあるが、地区館を会場にしているので当然である。参加人数の減少が見られるが、これはコロナの因子だけでは無いと思われる。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての担当課意見・数値目標等	市民の身近にある公民館において、より多くの方に学びの機会を提供し、地区館を趣味を同じくする仲間同士のふれあい、地域交流の基点とすべく取り組んでいるが地区館によって教室・講座数に偏りがある。このような状況を踏まえ、各地域の学習ニーズを的確に把握し、教室・講座数の偏り等の見直しを図り、住民が気軽に参加でき活動の輪を広げられるような教室・講座の運営に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	文化振興事業	担当課名	生涯学習課 (文化会館)
係 名	総務係・文化会館係	施設名	文化会館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。							
事業の内容		魅力ある文化芸術鑑賞事業・市民参加型事業を継続的に展開することにより、良質な芸術・文化に触れる“きっかけ”や自ら参加する喜びを体感する機会を市民に提供し、地域の文化力向上に寄与することを目的として、無料及び有料のコンサートや演劇公演等の機会を提供する。							
事業対象		市民及び近隣市町村の住民							
事業年度		☒	区分指定無		☐	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		3,230	2,200	11,861
		内一般財源		3,211	2,200	8,961
		内国・県補助金		0	0	
		内受益者負担		19	0	2,900
		人件費 ②		6,538	7,059	4,769
		総コスト①+②		9,768	9,259	16,630
実績と 成 果	事業 実績	区 分	単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
		自主事業入場料	千円	0	0	2,800
		自主事業委託料等料	千円	1,299	1,298	8,300
	事業 成果	自主事業入場数	人	243	469	1,100
		自主事業 (有料)開催数	本	0	0	3
		自主事業 (無料)開催数	本	4	3	4

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から有料公演は見送り、事業の開催方法や内容の検討を行った。市民の安全を最優先に考えつつ、長引くコロナ禍のなか少しでも心安らぐ楽しい時間を過ごして頂きたいとの思いから、これまでの経験を活かして座席制限・事前予約制の徹底・収録公演(動画配信)等の対策や工夫を行い、市民に芸術鑑賞の機会を提供する事ができた。 新庄文化会館では、市民劇団「風塾」の定期公演を令和2年度に続いて全席指定・事前予約制にて実施したが、8月下旬に予定していた當麻文化会館の夕涼みコンサートは感染拡大防止の為中止とした。また、Ensemble Wizによるクリスマスコンサートは、令和3年度は全席指定・事前予約制で実施。市民劇団「くすのき」の定期公演は3月下旬に実施はしたが、コロナウイルス感染拡大防止の為無観客での収録公演とし、後日、スクリーン公演を開催する予定である。			
事業の課題・問題点	新型コロナウイルスによる影響の緩和後の課題は、有料公演の開催が可能になった場合のスキルの継承である。丸2年間で有料公演が開催できていないため、有料公演を経験していない職員がいる。安全対策を図りながらのスムーズな実施に向け、基本的な業務の流れやマニュアルの確認に加え、チケットWeb予約サービスの知名度向上、自主事業におけるコロナ対策等、一つ一つ確実にやっていく必要があると考える。また、友の会会員に会員特典を提供できない状況が続いているが、今後何らかの形で還元していけるよう検討を行う必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コロナの影響により事業規模を縮小せざるを得ない状況が続いているが、様々な対策や工夫を凝らして市民に芸術鑑賞の機会を提供する事ができるよう、出演者とも協力しながら務めている。動画配信等これまでになかった自主事業運営のノウハウの蓄積は、今後の事業展開に変化をもたらすことができるのではないかと考えている。そうした中、今後の有料公演の開催を見据え、一般財源頼みの事業運営とならないよう、活用できる助成金や補助金をリサーチし効果的な集客に努めたい。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	感染症拡大防止の観点から、事業の開催方法や内容を検討し、芸術鑑賞の機会を提供するとともに、去年度より実施している動画配信という新しい方法も実施し、十分評価できる。今後このような経験を活かし、目標達成に向けて努力してください。また、本年度も安定した集客の確保に向けて友の会の還元イベントも実施してください。 コロナ禍の制限があるので、自主事業の採算を求めることは非常に厳しい状況である。しかし、芸術・文化に触れる機会の創出は一朝一夕でできることではないので、市民文化芸術の火を消さないという長い視点で事業を展開していくしかない。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	コロナの影響がいつまで続くか不透明な中、引き続き感染防止策を講じ動画配信も視野に入れながら、令和3年度に実施できなかった有料自主事業を、令和4年度は開催方法や内容を検討して良質な芸術鑑賞の機会を市民に提供していきたい。また、この2年間実施できなかった友の会還元イベントについても、集客を見込めるような企画を実施していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	生涯学習課 （歴史博物館）
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標		歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標		歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的		近年、市民の地域の歴史・文化に対する関心が薄くなってきており、また知る機会も少ない状況にあることから、合併により生まれた葛城市の歴史や伝統文化を伝えていく必要がある。この葛城地域の歴史文化を特別展や常設展などの展示会を通してわかりやすく解説・紹介し、市民の愛郷心を育てていくことを目標としている。				
事業の内容		展示会（年間企画展１回・特別展１回）の開催、展示図録等の発行。				
事業対象		市民等来館者				
事業年度			区分指定無			年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		2,142	2,504	3,344
		内一般財源		1,411	1,653	2,258
		内国・県補助金				
		内受益者負担		731	851	1,086
		人件費 ②		5,981	4,665	7,308
		総コスト①+②		8,123	7,169	10,652
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	入館料	円	231,870	255,730	376,200
		図録売上	円	499,450	595,430	710,000
	事業 成果	入館者数	人	2,331	2,580	2,170
		(開催中入館者)	人	(1,124)	(春517+秋1,277)	
		図録売上	冊	1,012	1,542	1,400

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、令和3年度はのべ45日間の休館措置がとられた。その上で、予定していた春季企画展の開催時期をずらして対応し、展示観覧機会の確保に努めた。 秋に開催した特別展『葛城の古道を辿る』は、写真資料を数多く用いるなど、新しい展示手法をとった。コロナ禍による様々な制限が緩和される時期にあたったことと「道」というテーマが時勢に合致したのか、期間中の入館者数は前年度を上回る結果となった。また、来館者より口コミでの高評価があったことを聞かされた。 一般的な展示とはやや異なるアプローチではあったが、手法のひとつとして今後も取り入れていく価値があることを示した。			
事業の課題・問題点	令和3年度は、平成30年度より引き続き1名の学芸員が、展示会業務を準備し開催している状況であった。そのため、専門分野が偏り、幅広いテーマでの展示が困難であった。 令和4年度より、学芸員2名が新規採用され上述の問題点は改善された。今後は、新採学芸員を教育・育成しながら、より豊かな展示を実施するべく業務にあたっていく必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	学芸員の新規採用により、今後展示会に多様性が生まれることが期待される。しばらくは経験ある学芸員の主導による展示会となるが、「専門性への特化もひとつの手法」というご意見を力にしつつ、これまでどおりテーマを工夫をすることで、来館者増への取組を継続していきたい。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	学芸員1名で企画され、専門分野に偏りがあるが工夫を凝らした展示会であり、安定した入館者数を維持していることは、十分評価できる。令和4年より、学芸員2名が新規採用され、適材適所の配置を行い今まで以上の成果を期待したい。 長期的な課題であった学芸員の確保が叶い、発展へと舵を切ることができる状況が整った。現在の展示は旧新庄町時代のままである。葛城市や葛城地域を対象とした展示に更新していくことが必要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	展示会は、歴史博物館の主要事業である。新たに採用された学芸員とともに、各人の特色を活かしながら、展示内容・テーマ設定に工夫を重ね、今後も事業を継続していきたい。 また、課題である常設展示内容の改修については、予算面での負担を軽減する方法を研究しつつ、可能な部分より順次行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	生涯学習課 (歴史博物館)
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。				
事業の内容	市民の愛郷心を育むことを目標に、歴史文化講座「葛城学へのいざない」を、年間14回開催する。葛城地域の歴史文化や、その周辺の歴史について、新しい成果をふまえながら、本講座でわかりやすく紹介し、地域の歴史文化への理解を更に深めていただく機会としたい。 また、夏季には高学年児童を対象に、親子で勾玉等の制作とクイズラリーを体験する親子歴史講座を開催する。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		95	100	130
		内一般財源		95	100	130
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		4,950	3,290	5,237
		総コスト①+②		5,045	3,390	5,367
実績と 成 果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	講師	人	7	4	7
		講師報償費	円	94,660	100,000	130,000
	事業 成果	参加者数	人	615	652	1,260

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和3年度は、15回の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、実施は9回にとどまった。実施の場合も、定員90名という制限を設けて行った。昨年度に引き続き、講座への市民の参加率は上昇しており、施策目標の実現に貢献していると考えられる。 主な経費である講師謝金については、講座の約半数を当館職員が務めることと、博物館ネットワーク内の相互協力を利用することにより、経費の削減に努めている。			
事業の課題・問題点	毎年十数回開催する歴史講座において、テーマと講師選定に苦慮していることは近年の課題である。しかし、他館にない独自性のある講座の開催は、県内外を問わず好評で、多くの参加者を集めている。継続して開催するために、葛城市の歴史における新しい学説や新規講師について、各機関と情報交換をしつつ特に市民の関心を高められる内容となるよう研究を継続する。 また、アンケートなどで寄せられた要望にも、十分配慮して計画立案する必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	昨年度ご評価いただいた「受講カード」については、2年目を迎え定着する傾向にある。またホームページ上では講座申し込み用の専用フォームを設置し、パソコンやスマートフォンから簡単に申込みできるようにした。今後も受講者の意見をとり入れつつ、より利便性を高めていきたい。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度も博物館ネットワークの活用や関係機関と情報交換をし、市民の興味・関心を高めるような講座を実施し成果を上げている。また、2年目となる「受講カード」も定着し、気軽に受講できる環境づくりに取り組み十分評価できる。 インターネット申込を活用し独自の受講カードシステムを構築するなど時代に応じた素晴らしい取組を行っており、参加率の上昇に貢献している。少ない予算の中で講座も様々なテーマで頻度も多く開催し、着実な成果を積み重ねている。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	引き続き、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座の開催と、市民のニーズに応える講座となるよう研究に努めたい。また、評価いただいた点についても検証と改善を続け、より良い在り方を模索したい。 コロナ禍は当事業に大きな影響を与えたが、そこで得た事業運営上の経験を今後にも役立てていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	生涯学習課 (歴史博物館)
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。				
事業の内容	市内遺跡の範囲確認・保護、記録保存等のための発掘調査を市教育委員会が主体となって実施する。その後、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・各地方自治体・各研究機関へ配布し、埋蔵文化財の保存・研究・活用のために資する。同様の内容を、電子データ化し、一般の方々にも、手軽に閲覧できる機会を設ける。 また、市内遺跡内で開発工事が行われるのに際し、遺跡地の状況により必要であれば、現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果終了報告書等を作成し、県教委へ提出する。				
事業対象	一般事業者・市民				
事業年度	☒	区分指定無	☐	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		2,153	2,094	2,000
		内一般財源		653	594	500
		内国・県補助金		1,500	1,500	1,500
		内受益者負担				
		人件費 ②		4,187	4,143	6,393
		総コスト①+②		6,340	6,237	8,393
実績と 成果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	8	7	10
		立会等	件	6	2	10
		届出(通知)	件	83	78	80
	事業 成果	調査地	場所	地光寺跡	新村・柳原遺跡	新町・柳原線試掘調査

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	埋蔵文化財発掘調査事業については、開発に伴う緊急調査のほか、市内における重要な埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の範囲確認や、その遺跡の性格を把握する目的の調査を、国・県の補助を受けて毎年継続して実施している。 令和3年度は、新町・柳原線道路拡幅事業にともなう埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を実施した。市道路行政と文化財保護行政が、円滑に連携し調査を終えることができた。			
事業の課題・問題点	令和3年度は、前年度同様に発掘現場に対応できる職員が1名であり博物館業務を兼任していることから、大きな負担がかかることとなった。 令和4年度になり、学芸員が増員されたが、考古学専門ではない。新採学芸員のうち1名は、埋蔵文化財保護行政に携わった経験をもっていることから集中的に育成を行い、将来的な担い手の確保に努めていく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	昨年いただいた「将来的に埋蔵文化財を保護し十分成果を上げるためには、専門職の増員及び後継者の育成が最優先課題である」とのご意見は、学芸員の増員がなくても変わらない課題であると認識する。指導可能な職員が在職中に、育成の面で一定の成果が得られるよう、業務内容を考えていく必要がある。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	専門職の増員は解決された。今後は、新採学芸員の育成に力を入れ、埋蔵文化財の保護に取り組んでいただきたい。 文化財保護法により埋蔵されている文化財の保護が義務化されており、土地の所有者や開発業者には発掘調査が義務づけられている。古代からの史跡が数多く残る葛城市は県内唯一の人口増加地域として道路拡幅や宅地造成が今後も進んでいくと思われる。限られた人材で着実に事業を遂行していただきたい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、本市のまちづくりにおいては欠くことのできない事業である。 増加する開発行為に対応し、円滑に事業を遂行する上でも、後継者の育成は引き続き大きな課題である。 歴史博物館として対応の準備をしつつも、関係機関と連携を図り、効率的かつ計画的に事業が遂行できるよう努めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上 の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。				
事業の内容	市内在住の小学生を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各種教室を開催する。教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 また、教室の参加者が継続してスポーツをしたい場合は、総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」やスポーツ少年団や体育協会に移行を促すことで、スポーツのきっかけづくりという役割を明確化し、共存と発展を図る。				
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		704	588	1,008
		内一般財源		704	588	1,008
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,115	2,317	2,317
		総コスト①+②		2,819	2,905	3,325
実績と成果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業実績	小学生	千円	528	413	728
		一般	千円	—	—	—
		親子教室	千円	176	175	280
	事業成果	小学生	人	123	88	100
		一般	人	—	—	—
		親子教室	組	39	34	35

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	子どもがスポーツを始める機会や親子で一緒に運動しふれあう機会を提供するという点で非常に重要な事業であり、参加者からは一定の評価を得られている。 令和3年度については、新型コロナウイルス感染症により当初予定していた教室の開催回数を実施することができなかったため、C評価とした。			
事業の課題・問題点	令和3年度については、例年開催していたジュニア体操教室の講師より辞退の申出があり、開催できなかった。新しい講師による開催を検討したものの、講師の確保ができなかった為、令和4年度についてもジュニア体操教室は開催しない。今後、各種教室開講事業を継続する上で講師の確保が課題となっている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	教室の移行については見送ることとなったが、スポーツクラブ葛城とは継続してコミュニケーションをとり、事業を進めている。棲み分けの線引きだけでなく両事業が共存・発展していけるよう協力関係を築き、事業目的の達成を目指す。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	事業の目的でもある、スポーツに親しむ機会を提供し、健康増進を図るためにも、気軽に参加できる環境が必要である。そのためにも、毎年児童のニーズを把握し、既存の教室だけでなく、新しい教室も検討していく必要がある。それに伴って、講師の確保も必要である。これからもスポーツを始めるきっかけを提供して健康増進を図っていくために取り組んでください。 スポーツクラブ葛城への完全移行を当初目指していたが、有料・全年齢・参加継続のスポーツクラブと、無料・小学生・初心者教室との違いがはっきりしてきた。また設定している種目も異なっている。今後はそれぞれの趣旨に基づいて、教室、スポーツ少年団、スポーツクラブ葛城と色分けしながら発展していくべきである。
-----------	---

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市主催のスポーツ教室については、毎年教室終了時に受講生や保護者らにアンケート調査を実施し、その結果を基に教室の内容や、指導方法など講師と協議して、より良い教室の運営を継続していきます。 スポーツクラブ葛城につきましては、市のスポーツ教室と内容が重複しないように、全年齢、参加継続のクラブ運営ができるよう、今後も指導や協議等を行っていきます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	新庄第1健民運動場他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり				
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進				
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。					
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。					
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）					
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和２年度決算	令和３年度決算見込み	令和４年度予算
			事業費 ①	236	1,344	4,699
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	236	1,344	4,699
			人件費 ②	7,034	6,376	6,376
			総コスト①＋②	7,270	7,720	11,075
実績と 成 果	区 分		単位	令和２年度実績	令和３年度実績	令和４年度(目標)
	事業 実績	大会事業費	千円	236	1,344	4,699
	事業 成果	大会参加者数	人	372	1,002	8,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☒ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	子どもがスポーツを始める機会や親子で一緒に運動しふれあう機会を提供するという点で非常に重要な事業であり、参加者からは一定の評価を得られている。 令和3年度については、新型コロナウイルス感染症により当初予定していた教室の開催回数を実施することができなかったため、C評価とした。			
事業の課題・問題点	多くの事業が中止となった令和2年度及び令和3年度の間に、市民のニーズがどう変化しているかを検討した上で行事の企画を行う必要がある。 令和4年度についても、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、コロナ禍において市民の安全を確保し、多くの市民が安心して参加できるよう感染症対策を協議していく必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和3年度については、感染症対策を講じた上で市内少年野球大会、秋季スポーツ大会、市民綱引大会、クロスカントリー大会を開催した。外部環境(感染状況)により開催の可否が左右される状況は続くことが想定されるが、引き続き多くの市民が安心して参加できる大会の企画・運営に取り組む。
-----------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	多くの事業が中止となったが、感染対策をとり5事業が実施されたことは評価できる。今後もコロナ禍に於いて、各種団体等と協議し、市民が安心して気軽に参加できるよう環境づくりに取り組み、市民の健康増進を図ってください。 令和2年度に比べ少しずつ開催する方向に進んでいる。今後まだしばらくコロナ対策が必要だと推測されるので、市民体育祭をはじめ各種大会には工夫を凝らし、コロナ禍でも開催できる運営を構築していただきたい。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和4年度は、春季スポーツ大会、市民ソフトバレーボール大会等、感染対策を徹底し実施してきました。今後の社会体育行事につきましても、新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、行事内容に対応した感染対策を関係団体と協議し、市民が安全で安心して参加できるよう運営してまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標		誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり				
	施策目標		運動の場の形成を通じた市民の健康の増進				
事業の目的		体育施設の安全で効率的な管理および運営					
事業の内容		体育館　４ヶ所（當麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場　５ヶ所（當麻健民運動場、新庄第１健民運動場、新庄第２健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート　３ヶ所（當麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール　２ヶ所（新庄、當麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員５名、会計年度任用職員１２名で行っている。 施設の老朽化に伴う修繕については、施設管理の方向性を検討し、公共施設のファシリティマネジメントとの整合性を図りながら、計画的な施設の維持修繕を実施する。					
事業対象		施設利用者（市内在住・在勤者）					
事業年度		☒	区分指定無		☐	年度　　～　　年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和2年度決算	令和3年度決算見込み	令和4年度予算
		事業費 ①		165,375	70,311	280,250
		内一般財源		165,020	69,720	278,850
		内国・県補助金				
		内受益者負担		355	591	1,400
		人件費 ②		11,534	10,199	10,199
		総コスト①+②		176,909	80,510	290,449
実績と 成果	区 分		単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度(目標)
	事業 実績	施設管理費	千円	165,375	70,311	280,250
		内修繕、工事費	千円	130,279	33,056	239,392
	事業 成果	施設利用者	人	105,987	93,114	160,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	子どもがスポーツを始める機会や親子で一緒に運動しふれあう機会を提供するという点で非常に重要な事業であり、参加者からは一定の評価を得られている。 令和3年度については、新型コロナウイルス感染症により当初予定していた教室の開催回数を実施することができなかったため、C評価とした。			
事業の課題・問題点	市内の社会体育施設は昭和59年に奈良県で実施した「わかくさ国体」に合せて建築されており、老朽化が進んでいる。今後も大小含む多くの修繕業務が発生することが予想される。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和4年度の新庄スポーツセンターの耐震改修工事により、指定避難所になっている市内体育館の耐震化が完了する。今後は耐震化により改修した部分以外の箇所でも修繕が発生する可能性が高いため、引き続き施設の修繕必要箇所の早期発見及び早期対応に努める。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	体育施設を安全で快適に利用するためには、日々の点検が必要である。そのためには利用者とのコミュニケーションをとり、破損箇所の早期発見を行い、これからも今まで通り、計画的に管理・運営に取り組んでください。また、計画的に維持管理するためにも今後受益者負担の原則に伴う使用料有料化の検討が必要である。 コロナ禍の現在においても7割近い利用率を誇り、施設の必要性は実証されている。現状は原則無料使用が可能で市民サービスとしては素晴らしいことであるが、2031年の国体開催に向けて整備を行っていくときに、高機能の施設とそうでない施設とができ、差が生まれてしまう。High-Lowをミックスした運用も視野に入れ、有料化の議論も必要かと考える。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	危険箇所の早期発見早期対応をして市民が安全で安心して使用できるように、今後も定期的に点検をしながら管理を行います。また、避難所にもなっている新庄スポーツセンターは今年度中に耐震改修工事も完了予定で、旧耐震の設計で建築されている市内の社会体育施設はすべて耐震化工事完了となります。 国民スポーツ大会につきましては、現状の施設概要の奈良県へ報告を行いましたので、今後は競技スポーツの確定、それに合わせた施設改修を関係機関と協議を重ねながら進めてまいります。	

7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

(1) 各事業に対する意見について

事業 No. 1 学校施設トイレ改修工事

生活環境が変化する中で、一日の大半を過ごす学校は、子どもたちの生活の一部といってもいい存在です。暗いイメージしかなかったトイレを一掃し、気持ちよく快適な学校生活が送れるよう改修工事に努力していただいたことは大いに評価ができます。

改修工事については、継続が必要と考えます。衛生面で便座に触れる事のできない児童、生徒がいる可能性もあるので、他で見られる除菌シートの的な物も必要と思います。

感染症対策の観点からも早期に完了できるよう対応をお願いします。

事業 No. 2 学校施設各所改修工事

新庄中学校の渡り廊下が、雨の日に滑りやすくなっています。一度、学校の方へ確認の程よろしくお願いします。

限られた予算ではありますが、今後も学校現場と十分に連絡を取り合い、長寿命化を視野に入れつつも未然に事故を防止できるよう引き続きお願いします。

事業 No. 3 JFA こころのプロジェクト「夢の教室」委託事業

新型コロナウイルス感染前は、アスリートの方々が出前授業として、子どもたちに将来に向かって夢を持ち続けることや、努力を惜しまないことの大切さを教えていただき、直接声を聞くことにより、感動を与えていただいたと思います。コロナ禍が収まらない中、リモートでの授業となっていましたが、以前のようにアスリートと対面で触れ合える授業ができることを望みます。

小学生では活動の継続が望ましいと思います。中学生は職業体験ができない中、高校生、大学生、地域の方々、たくさんの講師の方々とのコミュニケーションも必要と考えます。

コロナ禍の今だからこそ、開催のタイミングを計りながら子どもたちが夢を持てるよう、様々な分野での企画・運営をお願いします。

事業 No. 4 学校給食事業

学校給食事業については、日々、安全・安心な給食を提供していただいているところですが、給食が「楽しみ」と思ってもらえるように、子どもたちの意見を取り入れた献立の工夫を期待します。

SDGs の観点から、残食に対する教育を再度先生、生徒が話し合っただけでも減らせる取組が必要なのと、今後の給食費関係も取り組まなければならないと思います。

様々な材料の高騰のなか、安心安全な給食の提供に日々努めていただいています。子どもたちの将来の食生活や健康維持の基礎となる食育にも引き続き取り組んでいきたい。

事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会

葛城市の素晴らしい文化を継承していくためにも、本事業を身近なものとして、市民の人たちに知らしめる必要があると思います。市民の方々が気軽に応募ができる工夫と、その結果を趣向を凝らした方法で多くの人たちに楽しんで聞いていただける場を設けることが大切かなと思います。

今後また違った形の取組もあれば良いと思います。

市内の学校には、前川佐美雄が作詞された校歌が今も歌われていますが、果たして子どもたちは、この美しい日本語をどれほど理解して歌っているのだろうと思います。改めて事業の目的を再確認し、広い視野に立ち、幅広い年代の市民に受け入れられる種まきを再考していただきたい。

事業 No. 6 読書活動支援・講座

対面での活動ができるようになれば良いと思います。

ボランティアの協力はもとより、図書館としても、広報誌での PR の充実、資料の展示方法、大人向けの事業など、電子機器の時代だからこそその本の良さを知ってもらえる利用者の拡大に努めていただきたい。

事業 No. 7 ブックスタート事業

対面での活動ができるようになれば良いと思います。

事業 No. 8 電子図書館事業

電子図書の利用が増えており、十分に評価できます。今後も周知方法について検討が必要だと思います。

事業 No. 9 成人式式典事業

コロナ禍の中での式典となり、感染症対策を考慮しながら成人式を迎えられたことは、新成人にとってかけがえのない一日であったと思います。改善される課題はありますが、新型コロナウイルスが収束し、新成人による企画・立案が十分に発揮できる二十歳の集いを期待します。

問題点にある、終了後のロータリー付近での混雑に関しては、道路前でもあるので中央公民館、屋敷山公園方面に誘導されてはいかがですか。

葛城市外に出ていった人たちに、また戻って来ようかなと思ってもらえる、良い機会ではないでしょうか。内容を工夫して、最新の葛城市の現状を紹介するコーナー等を設置するのもいいのではないのでしょうか。

事業 No. 10 青少年健全育成事業

青少年健全育成協議会を含め 5 団体とともに今後は連携団体も増やしながら、不登校問題に取り組まなければならないと思います。

事業 No. 11 学校・地域パートナーシップ事業

地域パートナーシップ事業は、学校運営上、なくてはならない事業の一つとなっています。ボランティア不足という現状を抱えているようですが、この事業について「知らない」という一般市民の方が多くおられることを耳にします。事業の内容を理解してもらえよう、目に見える形で広く PR し、ボランティアへの参加の道しるべとして周知する工夫が必要と考えます。

コーディネーターの皆様と保護者の方々との連携がすごく上手くいっているように感じます。今後の課題は人材確保と新しいアイデアと考えます。

事業 No. 13 葛城アートフェア事業

コロナ後に新たなアイデアや魅力ある活動で葛城市の魅力を発信してもらいたいです。

事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務

子どもたちにとって、公園祭りや花火大会、夢フェスタなどの再開に期待しております。

事業 No. 15 中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業

葛城市當麻複合施設整備を各施設の事業見直しのタイミングと考え、運営方法や内容について検討していただきたい。

事業 No. 16 地区間教室・講座事業

とても良い活動と思いますが、拝見するとマンネリ化していそうに感じます。地区や大字の枠を超えて小学校、幼稚園とのコラボ活動など面白いと思います。

事業 No. 17 文化振興事業

この事業も子どもたちと触れ合い、より近くで観賞、体験などを通し、芸術文化に触れ合える機会を期待します。

葛城市當麻複合施設整備を事業見直しのタイミングと考え、企画・運営方法や内容について検討していただきたい。

事業 No. 19 歴史講座開催事業

講師にかかる経費節減に努力され、葛城市の歴史と文化を独自性を持った形で紹介し、多数の参加者を集められたことは大いに評価できます。市内の子どもたちが葛城市の歴史と文化に触れる機会を与え、興味を持つために創意・工夫を重ねた取組を期待します。

小学生、中学生目線の簡単で楽しい講座を、できることであれば各校に出張授業などしていただけたら、少しずつでも葛城市の伝統文化に興味を持つ子どもが増えると思います。

事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業

はやく全ての大会等、再開されることを期待します。

事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

趣旨は違いますが、体育施設の充実に加え、特に中学校のクラブ活動の施設の充実、管理等の見直し等を検討していただきたいと思います。

(2) 総評

主要な23事業について、事務局・各機関は「A 評価…2、B 評価…13、C 評価…6、評価不能…2」と自己点検しています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業の開催中止や縮小などを余儀なくされました。その影響もあり、C 評価「成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い」と判断される事業もあります。改めて、それぞれの取組状況を振り返りたいと思います。

今後も、事業の対象となる市民の皆様の満足度を第一に考え、ファシリティーマネジメントに基づいて、PDCA サイクルで事業遂行をしまいたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもとに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

いただきましたご意見を真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを感じていただけるよう、関係者の皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

令和4年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会

